沖縄タイムス　2001年11月29日

携帯使い受発注

簡素化　迅速化、ミスも防止

IT（情報技術）関連ベンチャー企業のTeco（那覇市、金城盛徳社長）は商品に付いているバーコード読み取り器で得た情報を、携帯電話で送信する受発注システムを開発した。共同開発した医薬品卸売業の琉薬（浦添市、富原盛勇社長）が二十七日から本格的な運用を始めた。携帯電話を使わずに読み取った情報を蓄積するこれまでの方法に比べて、受発注の作業過程が半減して迅速化。システム構築費が半額に抑えられる。同様な開発は県内では初めてで、全国的にもまだ少ないという。

Tecoと琉薬が開発

「携帯電話ウェブオーダーシステム」は、商品に付いているバーコードを読み取った上で、注文個数を入力。パスワードを入れて、携帯電話のiモード（NTTドコモ）やEZweb（沖縄セルラー電話）を通してデータを送信する。

発注から最速で三分後には受注確認の電子メールやファクスを送る仕組み。一回で二十種類の商品の発注ができる。

読み取り器は今年五月以降、大手メーカーなどが一台八千八百―三万円で販売しているものを使用。この機器を端末に使い、技術者四人が五カ月かけて完成させた。

琉薬は十一月にドラッグストア三店舗の新規開店に合わせ、試行試験を実施。通常の十―二十倍に当たる一千―二千種類の商品を受注したが、作業が六工程から三工程に半減。ミス防止の効果もあり、本格導入に踏み切った。

約百人の社員が端末を持ち、営業を始めた。譜久山健会計課長は「新規オープン時のデータ通信料もわずか四百二十円で済んだ。既存のシステムだと、端末だけでも一千万円近くかかるため、手作業を続けていた」と述べ、同システムだと導入費用が約五百万円で済んだと説明した。

琉薬のほかに雑貨卸業一社の導入が決まっている。

Tecoの小渡三佳矢営業部長は「卸売や小売などの在庫管理や棚卸しなどにも使える。機能を簡素化して、導入コストを抑えて販売していきたい」と話している。

名刺大（右）の読み取り器で商品に付いているバーコードを読み取って携帯電話で情報を送信する

オラクル

ミスマ

日本オラクル（東京都、新宅正明社長）は県内の大学・専門学校計十一校と新たに提携する。技術者の資格取得などをめぐって、育成する教育機関と採用する企業側のミスマッチ解消を目指し、IT（情報技術）人材育成を強化する。

農政講演会